



新潟市長
篠田 昭

「日本海拠点の活力を世界とつなぐ、 創造交流都市」をめざして

新潟市は日本一の穀倉地帯・新潟平野の港町として栄え、本州日本海側最大の都市として、その高い拠点性と豊かな食を国内外へアピールしながら発展しています。特に日本海を囲む対岸地域との国際交流は長い歴史を刻んでおり、韓国・ロシア・中国の3つの総領事館が設置されるなど、本市は北東アジアの交流と平和共生に大きな役割を果たしています。

この実績は日中韓3か国の文化担当大臣会合においても評価され、2015年の「東アジア文化都市」に選定されました。韓国清州市チョンジュ、中国青島市チンタオとともに、年間通じて多彩な文化プログラムを開催し、各市民に広く互いの独自文化を披露して、アジアそして世界に向けて大きくその特色を広めるものです。本市は「水と土の芸術祭」をメインイベントに、更なる交流人口の拡大に努めてまいります。2月のオープニングイベントには3か国の芸能を多くの市民が楽しむ中で、中国の旧正月にもあたり、中国総領事館の提唱で「新潟春節祭」が開かれるなど、街なかに東アジアの彩りを添えています。

今年は2つの都市と姉妹都市提携50周年を迎えます。米国テキサス州のガルベストン市とは、2008年のハリケーン被害以降徐々に交流が活発化し、高校生や市民委員会などが互いの町を訪れます。ロシアのハバロフスク市とは、環日本海交流の原点となる関係でもあり、東日本大震災以降休止している定期航空便復活に向けて、3年連続で運行される夏季チャーター便を利用して文化・スポーツ団の交換を行うなど、長い交流の歴史をともに振り返って祝います。

フランスのナント市、中国哈爾濱市ハルビン、韓国蔚山市ウルサンなどとも良好な関係を継続しており、マンガやアニメ、芸能音楽、青少年、環境など多くの分野での実績は、ナント市との交流が昨年「日仏自治体交流優良賞」という一つの実を結びました。

また、農業分野で国家戦略特区に指定されたことに加え、ユネスコ創造都市ネットワークのガストロノミー分野での認定に向けて活動を行い、世界各国の認定都市との交流事業により、世界と新潟が食文化分野で連携することをアピールします。

本市の新しい総合計画「にいがた未来ビジョン」の中でめざす都市像の一つ「日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市」実現に向けて、引き続き努めていきます。